

森川流域基本計画の成果の検証 一覧表 (平成27年度)

| 振興局等 | 基本計画名 | 総合的な検証 | | | | 特色ある活動等 | 主要な施策の進捗状況 | | | | 活動団体 | | 主な参考指標 |
|------|-------------------|---|---|--|---|--|---|---|---|---|------|-----|--|
| | | 成果 | 課題 | 今後の方向性 | 総合的なコメント | | 森林に関する施策 | 河川・海岸等に関する施策 | 水質汚濁の未然防止に関する施策 | 環境教育の推進・県民等の自発的な活動の促進 | 団体数 | 事業数 | |
| 盛岡 | 北上川上流水系流域基本計画 | <ul style="list-style-type: none"> ●森林ボランティア参加数は、各地で開催される植樹祭等に一定の参加が確保できるようになり、森林整備に取り組み活動団体も着実に増加している。 ●身近な水辺空間の環境保全等に主体的に取り組む団体数は目標値(6団体)を超えて7団体となった。 ●水生生物調査参加団体数は、目標値(29団体)を達成した。 ●公共用水域の常時監視において、河川・湖沼のBOD(COD)環境基準達成率及び環境基準未指定河川のBOD2mg/l以下の割合はともに100%と良好な水質を維持している(平成26年度ベース)。 ●流域協議会を分科会形式で開催したことにより、圏域内のつながりが強化され、協議会の活性化が図られた。 | <ul style="list-style-type: none"> ●公共用水域の常時監視において、BOD(COD)に係る環境基準の達成率及び類型未指定河川の水質は良好ではあるが(平成26年度ベース)、目標を達成できない年度もあることから、今後も継続して状況を把握する必要がある。 ●森・川・海のそれぞれの活動を繋げる取組(連携強化)が必要である。 ●環境保全活動団体の中には、人手や資金が不足している団体が多い。また、団体構成員の高齢化がみられる。 | <ul style="list-style-type: none"> ●新流域基本計画の策定をきっかけに、盛岡広域管内流域協議会を中心として、住民、環境保全団体、事業者及び行政がそれぞれの役割を果たしながら、連携して計画の推進に取り組めるよう努める。 ●流域協議会の運営方法などについて、有意義な意見交換がされるよう検討する。 | <ul style="list-style-type: none"> ●主な取組の指標に関しては、全体的に良好に推移している。 ●個々の環境保全活動がそれぞれの地域でなされている中で、連携した活動を実施している団体もある。さらに、流域情報ネットワークなどを活用して市民団体等の活動の活性化を図ることしたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ●岩手県環境保全活動知事表彰・環境マイスター紫波 | <ul style="list-style-type: none"> ●健全な森づくり 平成26年度、森林間伐面積は前年度比の約50%と低調であったが、森林ボランティア参加人数は目標(2,500人)の約70%と概ね順調である。各地で開催される植樹祭等には一定数の参加を確保し、森林整備に取り組む団体も着実に増加していることから、指標達成に向けて今後も取組みを継続することが必要である。 | <ul style="list-style-type: none"> ●生き物や人にやさしい川づくり 身近な水辺空間の環境保全等に主体的に取り組む団体は、平成26年度に続き平成27年度も7団体と目標(6団体)を達成している。 | <ul style="list-style-type: none"> ●水質の良好な保全 平成26年度、河川・湖沼のBOD(COD)環境基準は全ての水域で達成、湖沼の全燻は全地点で環境基準を達成しており、全体的に良好な水質を維持している。 ●水酸化人口割合が徐々に向上していることから、河川の水質は今後とも改善する方向にある。 | <ul style="list-style-type: none"> ●環境学習の推進 水生生物調査参加団体は、水生生物調査を支援する団体の活動の効果により、平成27年度は46団体と目標(29団体)を大きく上回っている。市町ごとに参加団体数に差があるので、参加数が少ない市町への呼びかけが必要である。 | 78 | 78 | <ul style="list-style-type: none"> ●身近な水辺空間の環境保全等に主体的に取り組む団体数 7団体(H26)⇒7団体(H27) ●水生生物調査参加団体数 40団体(H26)⇒41団体(H27) |
| | 米代川・馬瀬川上流水系流域基本計画 | <ul style="list-style-type: none"> ●森林ボランティア参加数は、各地で開催される植樹祭等に一定の参加が確保できるようになり、森林整備に取り組み活動団体も着実に増加している(平成26年度ベース)。 ●水生生物調査参加団体数は、目標値(6団体)に対して5団体と概ね順調であった。 ●公共用水域の常時監視において、環境基準未指定河川のBOD2mg/l以下の割合はともに100%と良好な水質を維持している(平成26年度ベース)。 ●流域協議会を分科会形式で開催したことにより、圏域内のつながりが強化され、協議会の活性化が図られた。 | <ul style="list-style-type: none"> ●森・川・海のそれぞれの活動を繋げる取組(連携強化)が必要である。 ●環境保全活動団体の中には、人手や資金が不足している団体が多い。また、団体構成員の高齢化がみられる。 | <ul style="list-style-type: none"> ●新流域基本計画の策定をきっかけに、盛岡広域管内流域協議会を中心として、住民、環境保全団体、事業者及び行政がそれぞれの役割を果たしながら、連携して計画の推進に取り組めるよう努める。 ●流域協議会の運営方法などについて、有意義な意見交換がされるよう検討する。 | <ul style="list-style-type: none"> ●主な取組の指標に関しては、全体的に良好に推移している。 ●個々の環境保全活動がそれぞれの地域でなされているなかで、連携した活動を実施している団体もある。さらに、流域情報ネットワークなどを活用して市民団体等の活動の活性化を図ることしたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ●水と緑を守り育てる知事感謝状 ・葛巻町立小瀬瀬中学校 ・八幡平市立安代中学校 ●セミナー ・馬事文化と自然環境の再生(安比高原ふるさと倶楽部) | <ul style="list-style-type: none"> ●健全な森づくり 平成26年度、森林間伐面積は前年比15%と低調、森林ボランティア参加人数は目標(430人)の約93%と順調である。各地で開催される植樹祭等には一定数の参加を確保し、森林整備に取り組む団体も着実に増加していることから、指標達成に向けて今後も取組みを継続することが必要である。 | <ul style="list-style-type: none"> ●生き物や人にやさしい川づくり 身近な水辺空間の環境保全等に主体的に取り組む団体は、平成26年度に続き平成27年度も7団体と目標(6団体)を達成している。 | <ul style="list-style-type: none"> ●水質の良好な保全 平成26年度、河川の水質は全ての水域で達成、全体的に良好な水質を維持している。 ●水酸化人口割合が徐々に向上していることから、河川の水質は今後とも改善する方向にある。 | <ul style="list-style-type: none"> ●環境学習の推進 水生生物調査参加団体は、平成27年度は目標(6団体)に対し、おおむね順調であったが、市町ごとに参加団体数に差があるので、参加数が少ない市町への呼びかけが必要である。 | 19 | 19 | <ul style="list-style-type: none"> ●身近な水辺空間の環境保全等に主体的に取り組む団体数 0団体(H26)⇒0団体(H27) ●水生生物調査参加団体数 4団体(H26)⇒5団体(H27) |
| 県南広域 | アレイの里水と緑の推進計画 | <ul style="list-style-type: none"> ●各団体が実施計画として流域計画に掲載している事業などのほか、地域振興推進費を活用した事業を実施した。 ●環境保全に取り組む人材育成の一環として、これまで環境リーダーの育成を実施してきた。今年度は育成した人材の活動支援として児童の環境学習への講師派遣(マッチング)を行った。また、あらゆる主体による環境保全分野の共同連携をめざし、環境団体や企業の環境取組をまとめた情報誌を発行するほか、環境フォーラムを開催した。 | <ul style="list-style-type: none"> ●各団体は従来から独自の取組を進めているものの、団体構成員の高齢化、資金確保の困難等により活動の休止、停滞がみられる。引き続き流域協議会共通の情報交換と連携を図り活動の支援と新たな担い手を増やすことが課題である。 | <ul style="list-style-type: none"> ●これまでどおり各団体の自主的な取組を尊重し、協議会としては側面支援を行ってきたい。また、環境リーダーの活動支援など、新たな環境保全の担い手の育成を継続実施したい。 ●外来種の駆除、希少動植物の保全など、生物多様性への関心が高まりつつあるので、今後はこの分野の課題を掘り起し、広域的な活動として取組を広めたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ●活動団体の休止・活動の停滞などで取組がやや遅れている。 | <ul style="list-style-type: none"> ●植樹、間伐等の森林整備事業 各団体の植樹・間伐等の森林整備事業は、林務部が実施する「企業の森づくり」で計画以上の効果も上げている。また、団体が実施する植樹活動でも、企業と協定を結び実施することになったものなど、新たな展開がみられたものについては、順調に取組が進められた。 一方、団体のみで実施しているものの中に、植樹を中断するなど、活動が停滞しているところもあり、この部分についても、分野を超えた連携協働を進める必要があると考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ●河川の水質・生き物調査の実施 管内の小・中学生、地区子供会等が水生生物調査を実施している。平成27年度は報告があったものだけで21団体が参加(このほか独自に調査を実施しているところもあり)。 | | <ul style="list-style-type: none"> ●環境保全に取り組む人材育成 3回(H26)⇒6回、延べ16人(H27) ●環境情報誌の発行、交流フォーラムの開催 5回(H26)⇒4回(H27) | | | | |
| | 豊沢川流域ビジョン | <ul style="list-style-type: none"> ●地元住民が組織する「豊沢川活性化・清流化事業推進協議会」を中心として、豊沢川流域や豊沢ダム周辺の清掃活動など自然保護活動や観水活動等が毎年、継続的に行われている。また、花巻市内の中小河川においても特色ある活動が活動団体によって精力的に行われている。 ●平成26年度からの2か年で当初の流域ビジョンの見直しを行い、今後10年間の次期計画を策定した。 | <ul style="list-style-type: none"> ●団体が活動するための資金の調達。 ●他の流域との活動連携。 | <ul style="list-style-type: none"> ●他の流域基本計画が策定された河川流域との連携。 | <ul style="list-style-type: none"> ●花巻地区の中心となる河川流域であり、これまで、地元住民団体を中心として様々な環境保全活動を精力的に行っている。平成27年度は9月に流域部会を開催し、次期流域ビジョン案を協議、策定した。今後、更新計画に基づき、部会や研修会の開催を通じて流域単位での施策の推進、評価を確実なものとする。 | <ul style="list-style-type: none"> ●環境大臣表彰 ・花巻のプナ原生林に守られる市民の会(平成12年度地域環境保全功労者表彰) ●豊沢川活性化・清流化事業推進協議会(平成28年度地域環境美化功労者表彰) ●知事表彰 ・花巻のプナ原生林に守られる市民の会(平成10年度環境保全功労者知事感謝状贈呈) ●豊沢川活性化・清流化事業推進協議会(平成24年度環境保全活動知事表彰(水環境・水資源部門)) | <ul style="list-style-type: none"> ●豊沢ダム上流部のプナ原生林の保護活動 「花巻のプナ原生林に守られる市民の会」及び地元住民が中心となり、保護活動や子供たちを対象とした自然体験学習を行っている。今後も継続して活動を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ●北上川流域の河川清掃 北上川河川数の清掃活動を定期的実施。今後も継続して活動を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ●観水活動の促進 夏休み期間中、子供たちを対象に水に親しむ活動を行っている(カッパ天国等)。また、冬季の自然観察や雪遊びも継続中。 | 6 | 22 | | |
| 花巻 | 萬丸川流域ビジョン | <ul style="list-style-type: none"> ●「たろし滝保存会」、「萬丸川淡水魚愛護組合」の活動を中心に、たろし滝の計測、淡水魚の繁殖保護活動等を通して、自然環境の啓発を行っている。 ●平成27年度に当初の流域計画の見直しを行い、今後10年間の次期計画を策定した。 | <ul style="list-style-type: none"> ●限られた団体のみが活動を行っている。 ●活動の広がりが少ない。 | <ul style="list-style-type: none"> ●活動団体の把握と賢治萬丸祭への参加促進、他流域との交流促進。 | <ul style="list-style-type: none"> ●たろし滝を中心とした活動や、夏場の釣り大会、賢治萬丸祭等、毎年の定期的な行事が行われている。平成27年度は10月、3月に流域部会を開催し、次期流域ビジョン案を協議、策定した。今後、更新計画に基づき、部会や研修会の開催を通じて流域単位での施策の推進、評価を確実なものとする。また、賢治萬丸祭等の取組を通して、次代をにぎう流域人材の育成に取り組む必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ●知事表彰 ・大瀬川たろし滝測定保存会(平成20年度環境保全活動表彰(水資源部門)) ●毎年、冬に行われる大瀬川上流のたろし滝の水柱測定は、地域の有名な恒例行事となっている。 | | <ul style="list-style-type: none"> ●たろし滝の計測、河川数の草刈、清掃の実施 たろし滝の計測や河川数の草刈、清掃については、地元住民が中心となって例年実施しており、今後も継続して予定。 ●淡水魚の放流事業 萬丸川の清流化を推進し、淡水魚類の繁殖保護に努めている。今後も継続して予定。 | 4 | 9 | | | |
| | 稚貫川流域ビジョン | <ul style="list-style-type: none"> ●地元の小学校による環境学習が継続的に行われている。また、住民自治会では地域全体でホテル・カワナナの生息調査を実施しており、自然環境の啓発活動が行われた。なお、毎年7月に早池峰ダムを中心としたイベントを行い、次代を担う子供たちに対する啓発を行っている。 ●平成27年度に当初の流域ビジョンの見直しを行い、今後10年間の次期計画を策定した。 | <ul style="list-style-type: none"> ●リーダーシップをとる団体等がない。 ●地元での活動が一般にあまり知られていない。 | <ul style="list-style-type: none"> ●地元住民による環境活動の支援を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ●早池峰の環境保全、地元の小学校による環境学習、また花巻土木センター主催による啓発活動などが行われているものの、他の流域と比較して流域全体に係る団体数・事業数が少ない。平成27年度は10月、3月に流域部会を開催し、次期流域ビジョン案を協議、策定した。今後、更新計画に基づき、部会や研修会の開催を通じて流域単位での施策の推進、評価を確実なものとする。また、地元住民、事業者を巻き込んだ活動を行うことで、事業に広がりを持たせる必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ●知事表彰 ・早池峰にゴミは似合わない実行委員会(平成13年度水資源功績者等表彰) ●知事感謝状 ・亀ヶ森小学校(平成14年度環境保全功労者知事感謝状贈呈) | <ul style="list-style-type: none"> ●森と湖に親しむこどもまつり 花巻土木センターの主催。次代を担う子供たちに対する啓発を行っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ●地元の小学校による環境学習の推進 サケ学習会や水生生物調査を実施している。今後も継続して活動できるよう、協力体制を確立していく。 | 4 | 8 | | | |

森川流域基本計画の成果の検証 一覧表 (平成27年度)

| 振興局等 | 基本計画名 | 総合的な検証 | | | | 特色ある活動等 | 主要な施策の進捗状況 | | | 活動団体 | | 主な参考指標 |
|-------------|-------------------------------|---|--|--|---|--|---|---|---|---|---|--|
| | | 成果 | 課題 | 今後の方向性 | 総合的なコメント | | 森林に関する施策 | 河川・海岸等に関する施策 | 水質汚濁の未然防止に関する施策 | 環境教育の推進・県民等の自発的な活動の促進 | 団体数 | |
| 北上市 (花巻) | 猿ヶ石川流域ビジョン | ●平成23年度、猿ヶ石川上下流で分かれていた流域ビジョンの統合を行ない、上下流の活動団体間の交流を深めるため、合同の流域部会、研修会等を実施した。各構成団体においても、自然観察会や河川清掃を開催している。 | ●上流下流の連携体制を定める。流域ビジョンの活動指標の一部に未設定の項目があることから、見直しの必要がある。 | ●猿ヶ石川の上下流域で共通した活動を通して交流を深めることにより、流域全体の環境保全活動について一体感と広がりをもたらす。 | ●花巻及び遠野流域協議会の統合を機に、流域上下流間の団体の連携を図り、研修会、魚類等生息調査などの環境調査を実施してきた。平成27年度後半から、ビジョン活動指標の策定や計画の見直しに向けて検討を開始した。今後は、他団体とも連携を図りながら部会や研修会の開催を通じて流域単位での施策の推進、評価を確実なものとする。 | ●知事表彰 ・矢沢地域の自然保護を考える会(平成18年度水資源功績者等表彰) ・矢沢地域におけるゼニタナゴの保護等里山の生態系の保全活動を通じて、地域住民の環境に対する意識の啓発に取り組んでいる。 | ●野鳥の会による自然観察会 ・猿ヶ石川の河川清掃後に参加者が川柳を詠むことにより環境保全を啓発するというユニークな活動であり、平成25年度からは田淵湖一斉清掃&ごみ川柳大会として下流域の花巻市民も巻き込んだ活動となっている。 | ●ダム湖の環境改善 ・田淵ダムにおいてアオコ等の恒常的な発生が問題となっていることから、平成17年度から暴風装置を導入して人工的に循環流を発生させ、水質の改善効果を検証している。 | ●メダカや淡水魚の保護、観察等 ・子供たちや都市部の住民に、里山の身近な自然と生き物にふれあう機会を提供している。 | 18 | 35 | |
| | わが川流域水循環計画 | ●「和賀川流域のきれいな水循環を推進する協議会」の構成団体に定着した観察会や清掃活動など各々の取組が定着してきている。また、構成団体が中心となり情報の発信や各種取組を通じて森や川に接する場を子ども達に提供するなど環境教育活動が継続されている。 | ●行政と住民に企業(事業者)を加えた形での各種取組が図られるような基盤整備が必要。 ●活動団体が固定化しており、新たな団体の掘り起こしが必要であると共に、新たな視点からの事業を展開していく必要がある。 | ●新しい活動団体を掘り起こし、和賀川流域のきれいな水循環を推進する協議会の構成団体に加えていきたい。 ●これまでに養成した環境教育指導者の活動の場を広げると共に、環境教育用資材の貸出を積極的に実施していく。 | ●左記の成果のとおり、「和賀川流域のきれいな水循環を推進する協議会」構成団体、NPO法人や行政等が、4つの目標に向け一歩一歩着実に取組んでおり、徐々にその成果があがっている状況にある。 ●平成27年度は10月に流域協議会及び研修会を開催し、次期流域計画を協議、策定した。今後、更新計画に基づき、同流域で活動する他団体と連携を図りながら、流域単位での施策の推進、評価を確実なものとする。 | ●知事感謝状 ・NPO法人わが川流域環境ネット(平成21年度水と緑を守り育てる活動知事感謝状) ●国土交通大臣表彰 ・和賀川の清流を守る会(平成26年度水資源功績者表彰) | ●森林ボランティアによる枝打ち等の森林整備の実施 ・花巻農林振興センターが主体となり、広葉樹の手入れやスギの間伐等を小学生等を対象に毎年度実施しており、事業が定着している。 | ●河川立木のスポーツ的伐採の実施 ・北上土木センターが主体となり、和賀川流域の河川立木伐採計画を基に継続して実施している。 | ●農地・水環境保全活動の実施 ・水路の水質検査を実施し、農業用水の水質保全に努めるとともに、地域資源や農村環境を次世代に引き継ぐため、多様な主体の参加による効果の高い共同活動の推進を図っている。 | ●環境教育指導者及び環境教育用資材の活用 ・花巻保健福祉環境センターが主体となり、環境教育指導者を養成し、小学校や子ども会等の自然観察会に講師として派遣している。また、環境教育用資材の一般への貸出しも積極的に進めている。 | 23 | 59 |
| 一関 | 育もう恵み豊かな森と水 磐井川流域プラン | ●きらめく水環境を保全・創造する協議会、その他活動団体の自主的な取組が徐々に進み、連携意識が向上してきている。 | 【3流域共通】 ●地域内では、地元のNPOが活動を行っているものの、流域協議会事務局は県南広域振興局(一関センター)で行っており、協議会活動の核となるNPOが十分に育っていないことから、活動の広がりが見込めない。 | ●対象地域内で中心的に活動するNPOの育成を目指す。 ●年度内に流域基本計画を統合し、将来的には東西両岸地域の協議会の統合を目指す。 | ●地域住民が主体となった健全な水循環の確保に向けた取組は活発に行われており、目標に向け相応の効果があがってきている。 | ●森林の保全等 ・森林の保全のため、造林、間伐等の取組が目標に対して停滞している。 ・また、各団体による植樹等の活動が活発に行われており、取組事例等の情報提供、支援を行っている。 | ●河川清掃等 ・地域住民、団体、企業等による清掃活動が活発に行われており、取組事例等の情報提供、支援などを行っている。 | ●環境教育の推進 ・地域の環境お宝・発掘発見調査(委託事業)や各種団体による自然観察会などが開催されているが、小学校等における水質調査の定着を図ることにより、水循環の理解を深める必要がある。 【3流域共通】 ・今後各種団体の取組を支援し、活動の幅を広げていく。 | ●環境教育指導者及び環境教育用資材の活用 ・地域の環境お宝・発掘発見調査(委託事業)や各種団体による自然観察会などが開催されているが、小学校等における水質調査の定着を図ることにより、水循環の理解を深める必要がある。 【3流域共通】 ・今後各種団体の取組を支援し、活動の幅を広げていく。 | 24 | 58 | 【3流域共通項目】 ・川上・川下交流連携行事 9回(H27)⇒10回(H27) ・森林ボランティアによる森林整備面積 39.94 ha(H26)⇒42.42ha(H27) ・森林ボランティア延べ活動人数 3,542人(H26)⇒3,704人(H27) ・森林・林業教室開催日数 46日(H26)⇒48日(H27) 【流域別項目：磐井川流域】 ・河川のBOD環境基準達成率 100%(H26)⇒100%(H27暫定) ・水質調査団体数 6団体(H26)⇒4団体(H27) 【流域別項目：太田川流域】 ・太田川一筋橋のBOD75%値 0.5mg/L(H26)⇒0.5mg/L(H27暫定) ・水質調査団体数 1団体(H26)⇒1団体(H27) 【流域別項目：金流川流域】 ・河川のBOD環境基準達成率 100%(H26)⇒100%(H27暫定) ・水質調査団体数 1団体(H26)⇒2団体(H27) |
| | 育もう恵み豊かな森と水 花と泉のふるさと 金流川流域プラン | ●河川の水質は、概ね良好な水質が維持されている。 | ●経済的に苦しい状況の下で活動している団体が多く、安定的な資金の獲得に苦慮している。 | ●対象地域内での中心となるNPOの育成を目指す。 ●水生生物調査については、学校以外の自治会等団体による取組についても支援してゆく。 ●年度内に流域基本計画を統合し、将来的には東西両岸地域の協議会の統合を目指す。 | ●地域住民が主体となった健全な水循環の確保に向けた取組は活発に行われており、目標に向け相応の効果があがってきている。 | ●森林の保全等 ・森林の保全のため、間伐等を推進しているが、目標に対し停滞している。 ・一方、各団体による植樹等の活動が活発に行われており、取組事例等の情報提供、支援を行っている。 | ●農地の多面的機能の維持 ・水田の整備は目標を達成しつつある。 ・アドプトによる地域住民参加の土地改良施設清掃の取組が行われている。 | ●環境教育の推進 ・地域の環境お宝・発掘発見調査(委託事業)や各種団体による自然観察会などで、水循環の理解が深まってきている。 | ●環境教育指導者及び環境教育用資材の活用 ・地域の環境お宝・発掘発見調査(委託事業)や各種団体による自然観察会などで、水循環の理解が深まってきている。 | 21 | 46 | ・水田の整備率 40%(H27) ・河川のBOD環境基準達成率 100%(H26)⇒100%(H27暫定) ・畜産公害発生率 4件(H26)⇒9件(H27) ・堆肥舎整備率 100%(H26)⇒100%(H27) ・地域住民参加による土地改良施設の清掃、草刈 2土地改良区(H26)⇒2土地改良区(H27) ・水生生物調査団体数 7団体(H26)⇒6団体(H27) ・環境保全型農業の取組数 8地区(H26)⇒8地区(H27) |
| | 東磐井の里・健全な水循環をめざす流域基本計画 | ●東磐井の里・健全な水循環をめざす協議会、その他活動団体の自主的な取組が徐々に進み、連携意識の向上してきている。 | ●磐井の里・健全な水循環をめざす協議会は、県南広域振興局(一関センター)が事務局を行っており、協議会活動の核となるNPO等が十分に育っていないことから、活動の広がりが見込めない。 | ●対象地域内での中心となるNPOの育成を目指す。 ●水生生物調査については、学校以外の自治会等団体による取組についても支援してゆく。 ●年度内に流域基本計画を統合し、将来的には東西両岸地域の協議会の統合を目指す。 | ●地域住民が主体となった健全な水循環の確保に向けた取組は活発に行われており、目標に向け相応の効果があがってきている。 | ●森林の保全等 ・森林の保全のため、間伐等を推進しているが、目標に対し停滞している。 ・一方、各団体による植樹等の活動が活発に行われており、取組事例等の情報提供、支援を行っている。 | ●農地の多面的機能の維持 ・水田の整備は目標を達成しつつある。 ・アドプトによる地域住民参加の土地改良施設清掃の取組が行われている。 | ●環境教育の推進 ・地域の環境お宝・発掘発見調査(委託事業)や各種団体による自然観察会などで、水循環の理解が深まってきている。 | ●環境教育指導者及び環境教育用資材の活用 ・地域の環境お宝・発掘発見調査(委託事業)や各種団体による自然観察会などで、水循環の理解が深まってきている。 | 21 | 46 | ・水田の整備率 40%(H27) ・河川のBOD環境基準達成率 100%(H26)⇒100%(H27暫定) ・畜産公害発生率 4件(H26)⇒9件(H27) ・堆肥舎整備率 100%(H26)⇒100%(H27) ・地域住民参加による土地改良施設の清掃、草刈 2土地改良区(H26)⇒2土地改良区(H27) ・水生生物調査団体数 7団体(H26)⇒6団体(H27) ・環境保全型農業の取組数 8地区(H26)⇒8地区(H27) |
| 大船渡 | 大船渡市三陸町地域流域基本計画 | ●三陸町地域の美しい水環境をつくり守る協議会を1回開催(27/7/13)。 ・重点施策の平成26年度実績と平成27年度計画を報告。 ・今後の協議会活動の課題や方向性について意見交換等を行った。 | ●活動団体や地域が東日本大震災津波(以下「震災」)により被災したことから、活動の大部分が休止している状態であり、今後の協議会の活動・方向性を再構築する必要がある。 | ●復興事業の進展により生活環境が変化しているため、計画期間途中で重点施策の見直しが必要になる可能性がある。 | ●課題及び今後の方向性に同じ。 | ●森林等の水源かん養機能の向上・保全 ・豊かな海を育む大きな森づくり事業により、アオダモ600本を植樹した。 ・若萌の会による植林活動により、コナラ、ブナを12本植樹した。 | ●生活雑排水対策 ・大船渡市が、「エコライフ事業」実践地域として、大船渡湾に面するそれぞれの地区公民館から実践地域として指定された7地域において、説明会・学習会を実施し、大船渡湾の水質の状況や、家庭ですぐできる生活雑排水等について説明し、生活雑排水に対する意識が高まるよう啓発を行った。参加人数は122人で、増加傾向にある。 | ●環境教育・環境学習の推進 ・水生生物による水質調査参加人数は、指標を下回ったものの、昨年度と横ばいであった。 ・自然観察会・博物館スクール受講生には、指標を上回る生徒の参加があった。 | 15 | 12 | ・出前講座・受講生徒数 42人(H26)⇒37人(H27) ・植林:本数 2,010本(H26)⇒612本(H27) | |
| | 大船渡湾水環境保全計画 | ●大船渡湾水環境保全計画推進協議会を1回開催(27/7/13)。 ・重点施策の平成26年度実績及び平成27年度取組計画を報告。 ・今後の協議会活動の課題や方向性について意見交換。 | ●多くの活動団体が震災により被災したため、重点施策には震災の影響で実施できないものが、数多くあった。 ●大船渡湾の改良型湾口防波堤の設置工事が行われている。今後、湾口防波堤の復旧事業により湾口部の地形が再び変化し、また、湾内の水産養殖施設の復旧に伴い、海水交流の変化と水質の変化についての継続的な監視が必要である。また、それを見据えながら、今後の協議会の活動・方向性を再構築する必要がある。 | ●新しい大船渡湾の湾口防波堤には、外海との海水の交流口が設けられるが、今後も大船渡湾内の水質変化を監視し、環境保全に取り組む必要がある。 | ●復興事業の進展により生活環境が変化しているため、計画期間途中で重点施策の見直しが必要になる可能性がある。 | ●森林等の水源かん養機能の向上・保全 ・豊かな海を育む大きな森づくり事業により、アオダモ600本を植樹した。 ・若萌の会による植林活動により、コナラ、ブナを12本植樹した。 | ●生活雑排水対策 ・大船渡市が、「エコライフ事業」実践地域として、大船渡湾に面するそれぞれの地区公民館から実践地域として指定された7地域において、説明会・学習会を実施し、大船渡湾の水質の状況や、家庭ですぐできる生活雑排水等について説明し、生活雑排水に対する意識が高まるよう啓発を行った。参加人数は122人で、増加傾向にある。 | ●水生生物による水質調査等 ・水生生物による水質調査により、水環境保全について理解を深めた。参加人数は22人で、指標を下回り、また、平成26年度と比較して減少した。参加団体が1団体しかなかったことが原因と推定されることから、掘り起こしを図りたい。 | ●環境教育指導者及び環境教育用資材の活用 ・地域の環境お宝・発掘発見調査(委託事業)や各種団体による自然観察会などで、水循環の理解が深まってきている。 | 20 | 15 | ・水生生物調査参加人数 119人(H26)⇒22人(H27) ・河川環境維持活動団体参加者数 613人(H26)⇒632人(H27) |

森川海流域基本計画の成果の検証 一覧表 (平成27年度)

| 振興局等 | 基本計画名 | 総合的な検証 | | | | 特色ある活動等 | 主要な施策の進捗状況 | | | | 活動団体 | | 主な参考指標 |
|------|--------------------------|---|--|---|---|--|--|---|--|-----------------------|--|--|--------------------------------|
| | | 成果 | 課題 | 今後の方向性 | 総合的なコメント | | 森林に関する施策 | 河川・海岸等に関する施策 | 水質汚濁の未然防止に関する施策 | 環境教育の推進・県民等の自発的な活動の促進 | 団体数 | 事業数 | |
| | 気仙川流域基本計画 | ●気仙川流域基本計画推進協議会を1回開催(27/11/9)。 ●重点施策の平成26年度実績と平成27年度計画を報告。 ●今後の協議会活動の課題や方向性等について意見交換等を行った。 | ●活動団体や地域が震災により被災したことから、活動の大部分が休止している状態であり、今後の協議会の活動・方向性を再構築する必要がある。 | ●復興事業の進展により生活環境が変化しているため、計画期間途中で重点施策の見直しが必要になる可能性がある。 | ●課題及び今後の方向性に同じ。 | | | | ●森川海をフィールドとした環境活動の推進 住田町の森林環境学習(12回開催)や町民総参加による河川清掃等、森川をフィールドとした環境活動は実施されている。 しかし、海をフィールドとした環境活動については、震災からの復旧・復興途上にあることから、当面実施困難な状況である。 ●自然環境の活用推進 陸前高田市の生田地区コミュニティ推進協議会では、東京農業大学との共同による木炭発電・水車発電の実施等、震災前からの循環型社会に向けた取組が行われている。 しかし、震災被害が大きかった地域では、復旧・復興途上にあることから、当面実施困難な状況である。 | 16 | 33 | ●森林体験教室の参加人数 371人(H26)⇒414人(H27) ●炭焼き体験参加人数 59人(H26)⇒20人(H27) | |
| 釜石 | 釜石・大槌地域流域ビジョン(唐丹流域) | ●活動なし(震災により、活動団体及び地域が被災。) | ●構成団体及び地域の多くが震災により被災していることから、活動可能な団体の確認と再構築が必要。なお、流域ビジョン改訂に向けた情報共有も必要。 | ●流域ビジョン改訂に向け、他の保全の会との情報交換及び連携した取組を検討する。 | ●課題に同じ。 | ●知事感謝状 ・平成21年度水と緑を育てる活動知事感謝状 ●局長感謝状 ・平成20年度釜石・大槌地域環境保全活動功労者局長感謝状 | ●植林を実施するための道路の刈払い実施なし。 ●環境の森創設事業(育樹)実施なし。 | | | | 21 | 0 | |
| | 釜石・大槌地域流域ビジョン(鶴巻流域) | | | | | ●局長感謝状 ・平成21年度釜石・大槌地域環境保全活動功労者局長感謝状 | | ●小学校のクリーン作戦に併せた清掃活動実施なし。 | | | 42 | 0 | |
| | 釜石・大槌地域流域ビジョン(大槌・小槌流域) | | | | | ●局長感謝状 ・平成20年度釜石・大槌地域環境保全活動功労者局長感謝状 | ●育樹活動実施なし。 | ●河川・漁港清掃活動実施なし。 | ●環境塾(水生生物調査)の実施実施なし。 | | 61 | 0 | |
| | 釜石・大槌地域流域ビジョン(吉里吉里・浪板地域) | | | | | ●局長感謝状 ・平成21年度釜石・大槌地域環境保全活動功労者局長感謝状 | ●EM液投入実施なし。 ●海岸一斉清掃実施なし。 | | ●町内各小学校へのプール清掃への支援実施なし。 ●EM泥団子作り、泥団子の投入実施なし。 | | 57 | 0 | ●吉里吉里海岸海水浴場調査 実施なし(H26)⇒A(H27) |
| | 釜石・大槌地域流域ビジョン(甲子川・小川川流域) | ●平成28年3月25日に①、②の環境パトロール(現場見学)を行った。 ①南三陸国道事務所の釜石市内トンネル・高架橋工事現場。 ②釜石市鶴巻地区ラグビーワールドカップ開催会場予定地。 | ●継続的に自立運営していくための財源がない。また、独自の会計機能を有していないため、各助成金等を受けることが出来る組織作りが必要。 ●構成団体、活動内容の見直しが必要。 | ●各構成団体間の取組みの連携を図る。 ●流域ビジョン改訂に向け、他の保全の会との情報交換及び連携した取組を検討する。 | ●地域住民が主体となった清掃活動が行われる等、目標に向けて概ね順調に活動している。一方で、活動に関わるメンバーが固定化されているため、活動内容の見直し、各団体、個人への周知の仕方を考える必要がある。 | ●局長感謝状 ・平成22年度釜石・大槌地域環境保全活動功労者局長感謝状 | | | ●環境パトロール ①、②の現場見学を実施。 ①南三陸国道事務所の釜石市内トンネル・高架橋工事現場。 ②釜石市鶴巻地区ラグビーワールドカップ開催会場予定地。 | | 55 | 3 | |
| 宮古 | 宮古・下閉伊地域流域ビジョン | ●ビジョンでは、流域基本計画に掲げる7つの重点プロジェクト(森の再生、川と海の環境整備、水質保全、不法投棄防止、安全安心、資源循環型産業育成、環境学習の推進)の達成状況について、14の指標で評価している。このうち6の指標(BOD環境基準達成率、COD環境基準達成率、海水浴場の水質(水浴達成割合)、新たな不法投棄(10t以上)、小中学校の環境学習実施率、環境ボランティア団体数)について、目標を達成した。 ●汚水処理施設については、震災により漁業集落排水施設や合併処理施設等が被災したことにより、汚水処理率が低下している状況にある。 ●エコファーマー認定者数が減少傾向であるが、これはエコファーマーの認定有効期限を過ぎても更新しない農家が減少しているためである。 ●漁業関係が震災により被災し、漁業は復興を進めている段階にあり、震災前のカキ殻の再資源化を再開するまでには至っていない。 | ●住民が震災により被災したことにより、これまで活動を行っていた河川及び海岸付近から仮設住宅等に転居せざるを得ない状況にあるため、震災前より地域のボランティア活動に参加できない状況にあることから、ボランティア回数の目標値を達成できていない。 ●汚水処理施設については、震災により漁業集落排水施設や合併処理施設等が被災したことにより、汚水処理率が低下している状況にある。 ●エコファーマー認定者数が減少傾向であるが、これはエコファーマーの認定有効期限を過ぎても更新しない農家が減少しているためである。 ●漁業関係が震災により被災し、漁業は復興を進めている段階にあり、震災前のカキ殻の再資源化を再開するまでには至っていない。 | ●震災からの復興に伴い、それぞれの課題については解決しつつあるものの、震災前の状況に戻るまでには、まだしばらく時間を要する。今度も関係機関や団体の支援を継続し、期間内での目標達成を目指す。 ●震災の影響を強く受ける指標を中心として、やや遅れている。 | ●第1回宮古・下閉伊地域「森・川・海」保全・創造功労者表彰(H27表彰団体) ・水木 高志 ・橋本 久夫 ・泉山 博直 ・釜津田自然愛護少年団 ・宮古湾の藻場・干潟を考える会 ・特定非営利活動法人いわてマリンフィールド ・さんりくESD閉伊川中学校 | ●植林、育樹作業 管内には自主的かつ定期的に活動している団体が多い。市町村の広報等を通じて参加者を募るなどして、活発に活動している。今後も支援を行ってきたい。 ●河川清掃、海岸清掃 震災前に地域活動を行っていた住民が被災し、仮設住宅等に転居せざるを得ない状況であり、ボランティア活動が震災前より行えない状況が依然として続いている。 しかし、震災後も積極的に清掃活動を行なっている団体があることから、河川及び海岸清掃活動を震災前の水準に戻すために、これらの団体への支援を続けていきたい。 | ●汚水処理施設の整備促進 汚水処理施設整備率は65.9%で、震災以前(平成22年度実績)に比べると、増加傾向にある。平成29年度の目標値(77.1%)には依然として達していないが、被災した排水施設や処理施設の復興により、さらなる整備率の増加が期待できる。 | ●環境学習の推進 昨年度と同様に小学校単位での環境教育は充実している。地域経営推進事業等による環境団体への活動支援を今後も継続していきたい。 | 72 | 238 | ●河川清掃ボランティア回数 7回(H26)⇒15回(H27) ●海岸清掃ボランティア回数 9回(H26)⇒8回(H27) ●新たな不法投棄(10t以上)の件数 0件(H27) ●いわて道のボランティア活動等支援事業及びいわて川と海岸ボランティア活動等支援制度参加団体数 8団体(H27) ●エコファーマー認定者数 75人(H27) ●小中学校の環境学習実施率 100%(H26)⇒100%(H27) ●環境ボランティア団体数 51団体(H26)⇒46団体(H27) | | |

森川流域基本計画の成果の検証 一覧表 (平成27年度)

| 振興局等 | 基本計画名 | 総合的な検証 | | | | 特色ある活動等 | 主要な施策の進捗状況 | | | | 活動団体 | | 主な参考指標 |
|------|---------------|---|---|--|---|---|--|--|---|-----------------------|------|---|--------|
| | | 成果 | 課題 | 今後の方向性 | 総合的なコメント | | 森林に関する施策 | 河川・海岸等に関する施策 | 水質汚濁の未然防止に関する施策 | 環境教育の推進・県民等の自発的な活動の促進 | 団体数 | 事業数 | |
| 久慈 | 久慈川流域基本計画 | <ul style="list-style-type: none"> ●多数の団体が清掃活動に参加し、参加者の環境保全に対する意識が向上した。 ●水生生物調査の普及・定着を図り、調査方法・水質評価方法を学ぶ出前講座、調査道具の貸出しを行った。 ●森林環境保全意識の高まりを期待し、次代を担う子どもたちに対し森林教室や自然観察会等を行った。 | <ul style="list-style-type: none"> ●団体ごとに活動状況に差がある。また、活動を継続していくための次代の育成に課題を抱えている団体が多い。 ●現況が目標準と大きく乖離している項目がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ●環境アドバイザー等、環境リーダーの育成を図る。 ●流域協議会構成団体を対象に講習会等を開催し、活動の方向性の共有や、活動の質の向上を図る。 ●3流域計画を統合した新しい流域基本計画(平成28年度～)に基づく取組を展開する。 | <ul style="list-style-type: none"> ●震災による影響で全体の活動回数は減少したが、多くの構成団体が活動を継続的に行っており、近年は活動状況が概ね震災以前の状況に回復している。今後は各団体の活動の更なる活性化と連携した取組の推進を期待する。 | <ul style="list-style-type: none"> ●森林教室、植樹 森林教室や植樹活動が行われている。 | <ul style="list-style-type: none"> ●河川の清掃、沿岸部の清掃 多くの団体が自主的に清掃活動を企画し、清掃活動全体で延べ56,400人が活動に参加した。今後も各団体及び地域住民が主体となって継続していく予定。 | <ul style="list-style-type: none"> ●水質調査、公害防止協定の締結 久慈市条例に基づく公害防止協定や振興局による水質調査により、公害防止に努めている。今後も行政主導の取組を継続していく。 | <ul style="list-style-type: none"> ●水生生物調査等 子供を対象とした水生生物調査や水遊びを行い、環境教育の推進を行っている。今後も各団体及び地域住民が主体となって継続していく予定。 | 22 | 106 | <ul style="list-style-type: none"> 【3流域共通項目】 ・いわて地球環境にやさしい事業所認定数 3団体(H26)⇒4団体(H27) ・森林面積 89,753ha(H26)⇒89,753ha(H27) ・家畜排泄物管理施設整備率 100%(H26)⇒100%(H27) 【流域別項目:久慈川流域】 ・清掃ボランティア回数 268回(H26)⇒59回(H27) ・自然観察会等回数 36回(H26)⇒47回(H27) ・河川・水質環境基準(BOD・COD)達成率 100%(H26)⇒100%(H27) 【流域別項目:洋野流域】 ・清掃ボランティア回数 57回(H26)⇒22回(H27) ・自然観察会等回数 10回(H26)⇒14回(H27) ・河川・水質環境基準(BOD・COD)達成率 100%(H26)⇒100%(H27) 【流域別項目:野田普代流域】 ・清掃ボランティア回数 15回(H26)⇒23回(H27) ・自然観察会等回数 5回(H26)⇒19回(H27) ・河川・水質環境基準(BOD・COD)達成率 100%(H26)⇒100%(H27) | |
| | 洋野流域基本計画 | <ul style="list-style-type: none"> ●多数の団体が清掃活動に参加し、参加者の環境保全に対する意識が向上した。 ●水生生物調査の普及・定着を図り、調査方法・水質評価方法を学ぶ出前講座、調査道具の貸出しを行った。 ●森林環境保全意識の高まりを期待し、次代を担う子どもたちに対し森林教室や自然観察会等を行った。 | <ul style="list-style-type: none"> ●団体ごとに活動状況に差がある。また、活動を継続していくための次代の育成に課題を抱えている団体が多い。 ●現況が目標準と大きく乖離している項目がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ●環境アドバイザー等、環境リーダーの育成を図る。 ●流域協議会構成団体を対象に講習会等を開催し、活動の方向性の共有や、活動の質の向上を図る。 ●3流域計画を統合した新しい流域基本計画(平成28年度～)に基づく取組を展開する。 | <ul style="list-style-type: none"> ●震災による影響で全体の活動回数は減少したが、多くの構成団体が活動を継続的に行っており、近年は活動状況が概ね震災以前の状況に回復している。今後は各団体の活動の更なる活性化と連携した取組の推進を期待する。 | <ul style="list-style-type: none"> ●森林教室、植樹 森林教室や植樹活動が行われている。 | <ul style="list-style-type: none"> ●河川の清掃、沿岸部の清掃 多くの団体が自主的に活動しており、清掃活動全体で延べ2,601人が活動に参加した。今後も各団体及び地域住民が主体となって継続していく予定。 | <ul style="list-style-type: none"> ●水質調査 振興局による水質調査により、公害防止に努めている。今後も行政主導の取組を継続していく。 | <ul style="list-style-type: none"> ●水生生物調査等 子供を対象とした水生生物調査や水遊びを行い、環境教育の推進を行っている。今後も各団体及び地域住民が主体となって継続していく予定。 | 14 | 36 | <ul style="list-style-type: none"> 【流域別項目:野田普代流域】 ・清掃ボランティア回数 15回(H26)⇒23回(H27) ・自然観察会等回数 5回(H26)⇒19回(H27) ・河川・水質環境基準(BOD・COD)達成率 100%(H26)⇒100%(H27) | |
| | 野田普代流域基本計画 | <ul style="list-style-type: none"> ●多数の団体が清掃活動に参加し、参加者の環境保全に対する意識が向上した。 ●水生生物調査の普及・定着を図り、調査方法・水質評価方法を学ぶ出前講座、調査道具の貸出しを行った。 ●森林環境保全意識の高まりを期待し、次代を担う子どもたちに対し森林教室や自然観察会等を行った。 | <ul style="list-style-type: none"> ●団体ごとに活動状況に差がある。また、活動を継続していくための次代の育成に課題を抱えている団体が多い。 ●現況が目標準と大きく乖離している項目がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ●環境アドバイザー等、環境リーダーの育成を図る。 ●流域協議会構成団体を対象に講習会等を開催し、活動の方向性の共有や、活動の質の向上を図る。 ●3流域計画を統合した新しい流域基本計画(平成28年度～)に基づく取組を展開する。 | <ul style="list-style-type: none"> ●震災による影響で全体の活動回数は減少したが、多くの構成団体が活動を継続的に行っており、近年は活動状況が概ね震災以前の状況に回復している。今後は各団体の活動の更なる活性化と連携した取組の推進を期待する。 | <ul style="list-style-type: none"> ●森林教室、植樹 森林教室や植樹活動が行われている。 | <ul style="list-style-type: none"> ●河川の清掃・沿岸部の清掃 多くの団体が自主的に活動しており、清掃活動全体で延べ4,198人が活動に参加した。今後も各団体及び地域住民が主体となって継続していく予定。 | <ul style="list-style-type: none"> ●水質調査 振興局による水質調査により、公害防止に努めている。今後も行政主導の取組を継続していく。 | <ul style="list-style-type: none"> ●水生生物調査等 子供を対象とした水生生物調査や水遊びを行い、環境教育の推進を行っている。今後も各団体及び地域住民が主体となって継続していく予定。 | 22 | 42 | <ul style="list-style-type: none"> 【流域別項目:野田普代流域】 ・清掃ボランティア回数 15回(H26)⇒23回(H27) ・自然観察会等回数 5回(H26)⇒19回(H27) ・河川・水質環境基準(BOD・COD)達成率 100%(H26)⇒100%(H27) | |
| 二戸 | カシオペア連邦流域ビジョン | <ul style="list-style-type: none"> ●地域の森林や河川等に関する学習が管内の全小中学校で取り組まれているなど、地域の自然環境を生かした環境学習が推進されている。 ●水生生物調査や公共用水域水質測定の結果、管内河川では良好な水質が維持されている。 ●地元民間の環境団体と協力し例年実施していた環境講演会に代わり、誰でも気軽に参加できるよう環境フェスティバルを開催したところ、今まで参加が少なかった若年層から多くの参加が見られた。 | <ul style="list-style-type: none"> ●各団体とも環境保全活動を継続・持続して実施しているが、反面、活動内容の固定化が見受けられることから、管外で行われている活動等を参考として新たな活動を模索するなどにより活動を活性化することが求められる。 | <ul style="list-style-type: none"> ●継続して実施している効果ある活動は、持続させる。 ●情報の共有化を図り、連携し協働とすることにより、効率的かつ効果的な事業の実施や支援に努める。 ●若年層に環境への関心を持ってもらえるような取組の推進に努める。 | <ul style="list-style-type: none"> ●流域基本計画に掲げた8指標について、公共事業の大幅な見直しなど施策の方向性の変化もあり、森林間伐面積、水酸化人口割合等の指標については達成には至らなかったものの、着実に活動進めてきている。 ●10年間の活動状況を踏まえて改定した次期流域ビジョンを指針とし、今後10年の環境保全活動の推進を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ●健全な森林づくり(植林・間伐等、林業体験学習等) 平成27年度は間伐研修会実施、257haの間伐を行った。カシオペアフレスタスクール事業(地域振興推進費事業)で小学生等を対象に森林環境教育を実施した。今後も同様の取組を継続する。 | <ul style="list-style-type: none"> ●健全な川づくり(地域住民との協働による河川改修・整備、河川や農業用水路の清掃活動等) 地域住民や川を守る会、漁協、土地改良区、市町村が、河川や農業用水路等の草刈清掃活動を、個々に、又は協働で取り組んでおり、今後も同様の取組を継続する。今後も河川改修工事の施工の際は、多自然川づくりを進めていく。 | <ul style="list-style-type: none"> ●良好な水質保全(河川等の水質調査、下水道や浄化槽等の整備、家畜排泄物の適正処理、環境保全型農業技術の普及等) 公共用水域水質測定計画に基づき水質測定を行った二戸管内7河川10地点については、環境基準(BOD)を達成し良好な水質を維持した。下水道、浄化槽の整備に係る目標指標「水酸化人口割合」は着実に伸びているが、目標には届かなかった。エコファーマーの認定者数については下降の一途であった。これは、認定による販売上のメリットがないため、更新しない者が多かったことが主因である。 | <ul style="list-style-type: none"> ●環境学習の推進 管内小中学校全てにおいて、校務分掌に環境教育を位置づけ、水質調査・森林学習・植林・クリーン・清掃等の活動を取り入れ、学習を深めている。特に、森林学習と水生生物調査の取組には環境団体と行政(県・市町村)が連携して支援している。また、地元民間の環境団体との共催による「環境フェスティバル」を開催し、特に若年層を中心に地域住民等への情報発信と人材育成に努めた。今後も環境学習の推進に取り組んでいく。 | 26 | 26 | <ul style="list-style-type: none"> ●森林間伐面積(累計) 7,169ha(H26)⇒7,817ha(H27) ●多自然川づくりによる改修・整備済延長 19.7km(H26)⇒19.7km(H27) ●BOD・COD環境基準達成率 100%(H26)⇒100%(H27) ●水酸化人口割合 39.6%(H26)⇒41.3%(H27) ●減化学肥料栽培等の面積 302ha(H26)⇒216ha(H27) ●エコファーマー認定者数 239人(H26)⇒201人(H27) ●小中学校の環境学習実施校割合 100%(H26)⇒100%(H27) ●青少年の環境保全実践活動等参加団体数 29団体(H26)⇒24団体(H27) | |